

第1部

病気や治療について

第1部では、あなたやご家族などの身近な人ががんと告げられた時にどこに相談すればよいか、主治医からの病状説明を聞く際のポイント、その他岡山県でがん治療を受ける際に必要な情報を掲載しています。



1. がんと告げられたとき

(1) がんと診断されたあなたへ

がんと診断されたとき、動揺するのは無理ありません。「ショックで頭が真っ白になって何も考えられない」「これからどうなるんだろう」と不安な気持ちでいっぱいになると思います。

不安な気持ちを「ひとりで解決しなくては」と我慢する必要はありません。ひとりで悩まないで、わからないことや不安なことは近くににいる医療スタッフや、がん相談支援センターに相談しましょう。治療のことや生活のことを一緒に考えていきます。

(2) 身近な人ががんと告げられたら

身近な人ががんと告げられたときの気持ちも、とてもつらいものだと思います。自分がつらくても、本人はもっとつらいと思い、気持ちを抑えてしまうことも少なくありません。精神的な負担だけではなく、介護や経済的な心配もあるでしょう。

家族は「第二の患者」とも言われており、患者さんと同様に家族の心は揺れ動きます。つらい気持ちをひとりで抱え込まないで、近くににいる医療スタッフやがん相談支援センターにご相談ください。

※岡山県のがん相談支援センターについてはP7をご参照ください。



(3) 主治医の説明を聞く

主治医はこの先の治療において、もっとも重要な情報源です。
主治医は病状説明で以下のことをお話しします。

- ・ がんの診断（病名、がんの広がり（病期、ステージ））
- ・ がんの治療
- ・ 治療にともなう副作用、合併症
- ・ 将来的な見通し など

すぐに治療をしなければならないことについては、お会いしたその日にすべてお話しすることもありますし、時間的に猶予のある病状であれば、患者さんの気持ちのつらさやご家族のサポート状況などを確認しながら、段階的に話すこともあります。

いずれにしても、患者さんやご家族に関わる重要な説明ですので、まずは主治医の説明をよく聞きましょう。そして、知りたいことは遠慮なく質問しましょう。

落ち着いて説明を聞くために、主治医と話すときには以下のポイントを参考にされるといいと思います。

- ・ 説明を聞く日程は主治医と相談し、予約を入れて説明を受け
る時間を確保してもらいましょう。
- ・ 患者さんご自身だけでなく、ご家族や頼りになる人と一緒に
説明を聞きましょう。
- ・ 主治医に質問したい内容を、事前に書き出しておきましょう。
- ・ 説明内容のメモを取っておくと、後で確認するときに役に立
ちます。
- ・ わからないことは繰り返し確認しましょう。



1. がんと告げられたとき



手記 2022年4月 突然の肋骨の痛みと息苦しさのため救急受診し、心筋梗塞の疑いで様々な検査を受けました。その日の夜、おそらく白血病だと告げられて着の身着のまま入院しました。翌日には病名が確定し「急性白血病です。今後1週間が山なので、今から治療を始めます」と告知されました。発病から告知・治療開始までわずか一日でした。

急な入院でしたが、コロナ禍のため家族とも面会はできず、感染予防のためクリーンルームの個室から出ることもできませんでした。そのため告知された直後は孤独を感じるばかりで、なかなか前向きな気持ちになれませんでした。

しかし日を追うごとに家族や友人、そして医療スタッフの励ましが力になり、がんになって初めて自分がどれだけ多くの人に支えられているのか、気づく事ができました。周囲の方への感謝の気持ちが辛い治療を受ける勇気につながりました。

がんになって当たり前だった日常がどんなに貴重な日々だったかを知ることができました。これからも治療は続きますが、限りある日々幸せを感じながら、一日一日大切に生きていきたいと思っています。

memo

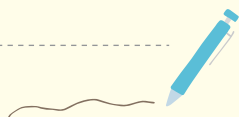
.....

.....

.....

.....

.....



2.治療について知る

(1) 標準治療について

「標準治療」とは、臨床試験の結果などから、現在利用できる治療の中で最良と考えられ、多くの患者さんに行うことが推奨される治療のことをいいます。専門家が集まって、科学的根拠に基づいて検討した結果、有効性や安全性の観点から最良であると合意が得られた治療であり、多くのがんで診療ガイドラインに標準治療が示されています。がん治療を行う病院では、診療ガイドラインに沿った標準治療が行われています。ただし、すべての患者さんで標準治療が最良とは限らないので、治療はそれぞれ患者さんの状態に応じて検討される必要があります。

(2) 治験・臨床研究について

新しい薬を作り、その薬を保険診療で使うことができるようになるためには、薬の候補品を患者さんに使っていただき、どれほど効くのか、どのくらい安全なのかを確かめる必要があります。

このように人を対象にした試験を「臨床試験」といい、特に、将来厚生労働省に提出され、製造承認を得ることを目的とした臨床試験を「治験」といいます。そして、この治験で使われる薬の候補品を「治験薬」といいます。治験薬すべてが有効かつ安全とは限らず、治験を通じて有効性および安全性が証明された薬が将来の標準治療の候補となります。



(3) がん遺伝子パネル検査について

がん遺伝子パネル検査は、がんの発生に関わる複数の遺伝子の変化を一度に調べる検査です。患者さんのがんの組織や細胞を使って数十から数百の遺伝子を調べて、がんの特徴を確認します。この検査によって遺伝子の変化を認めた場合、治療薬の選択や、治療方針を考えることにつながります。一方で、遺伝子の変化を認めない場合や、遺伝子の変化を認めたとしても使用できる薬が見つからない場合もあります。

がん遺伝子パネル検査は、標準治療が終了した、もしくはない、などの条件を満たした場合に、がんゲノム医療として保険診療の対象になります。適応については主治医とご相談ください。

がん遺伝子パネル検査は、国から指定を受けた医療機関を中心として行われています。岡山県内で国の指定を受けている医療機関には、下記の7施設があります（2024年2月現在）。

1. 岡山大学病院
2. 倉敷中央病院
3. 川崎医科大学附属病院
4. 岡山医療センター
5. 岡山赤十字病院
6. 津山中央病院
7. 岡山済生会総合病院



がん遺伝子パネル検査では、治療に関係する情報のほかに、遺伝子の情報から生まれつきがんになりやすい遺伝的な特徴を有しているかが分かる場合があります。遺伝の情報は血縁者と共有しているので、患者さんの検査結果をもとに、血縁者も遺伝情報に基づいたがん検査を実施するなど、血縁者においてもがん予防、早期発見・早期治療に役立てることが可能な場合があります。

(4) 希少がんについて

「希少がん」とは「人口10万人あたりの罹患数が6例未満の“まれ”な“がん”」の総称です。2019年の統計では日本人の人口10万人あたりのがん罹患数が791.9でしたので、希少がんは130人のがん患者さんのうち1人以下というとても“まれ”な病気です。ちなみに同じ2019年では、日本人で一番多い大腸がんの罹患数が人口10万人あたり123.3でした。しかしながら、実際にはたくさんの種類の「希少がん」があり、その数はおよそ200種類に及びます。すべての希少がんをまとめるとがん全体に占める割合は15～20%にもなり、がん患者さんのうち5～6人に1人は希少がんという計算になります。実は、希少がん患者さんの全体の数は決して「希少」ではないのです。

このように希少がん全体の数としては決して“まれ”ではないのですが、個々のがん種で見ると罹患する人が非常に少ないために、有効な診断・治療法の開発が難しく、診療のためのガイドラインも整備されておらず、希少がんを専門にする医療機関も少ないという問題があります。主治医から「希少がんで治療法がない」、或いは「ここでは治療経験が無い、どの病院で治療してもらえるかもわからない」と言われて途方に暮れたという話しも少なからず耳にします。

この問題解決のために、国立がん研究センターに希少がんに関する正確かつ最新の情報を患者さんに届ける「希少がんセンター」が設置され、その後全国の地方（地域）にも希少がんセンターが設置されてきています。国立がん研究センターの希少がんセンターのホームページにはたくさんの希少がんに関する患者さん向けパンフレットが掲載されていて、大変参考になりますので是非ご活用ください。患者さんが直接電話で相談できる「希少がんホットライン」も

2.治療について知る

紹介されています。岡山県では、2024年には岡山大学病院に希少がんセンターと希少がんホットラインが設置される予定です。

○国立がん研究センター中央病院

さまざまな希少がんの解説

<https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/division/rcc/about/index.html>



○国立がん研究センター

全国の希少がんセンターに設置されている
希少がんホットライン



<https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/division/rcc/hotline/index.html>

(5) 医科歯科連携について

1. がん治療の前には歯科を受診しましょう

がん治療では、医科と歯科の連携が重要です。がん治療の前に、口腔衛生管理（口の中をきれいにすること）や口腔機能管理（口から食事を摂取できる状態にすること）を行うと、がん治療を円滑に進めることができます。

2. 手術の前に歯科を受診する

① 肺炎の予防

がん手術の多くは全身麻酔で行われます。全身麻酔では人工呼吸のための管を口から肺の手前まで入れます。このとき、口が不衛生であると、口の細菌が肺に到達し、術後に肺炎を引き起こします。手術前に歯科で口の中をきれいにすることは、肺炎の予防につながります。

② 術後回復の促進

多くの歯を失い口の機能が低下していれば口から食事を摂取できません。手術の前に義歯を作製しておき、術後早期から口からの食事摂取が可能な様に準備しておけば、術後の回復が促進され、早期退院につながります。

3. 薬物療法の前に歯科を受診する

① 粘膜炎の軽減

抗がん剤治療は口の粘膜にダメージを与え、粘膜炎ができることがあります。抗がん剤治療の前に歯科受診し、虫歯の治療を行うこと、また口の中をきれいにして保湿することは粘膜炎の軽減につながります。

② 顎骨壊死の予防

がんの骨転移の予防・治療で使用する骨吸収抑制薬は、まれに顎骨壊死を引き起こします。あらかじめ歯科治療を行なっておけば薬剤関連顎骨壊死の予防につながります。

4. 放射線治療の前に歯科を受診する

耳鼻咽喉科、歯科口腔外科で頭頸部がん・口腔がんの治療を受ける患者様へ

① 放射線治療の完遂

頭頸部領域（口、のど、唾液腺など）に放射線治療を受けると、口に様々な障害（粘膜炎、口の渇き、歯周炎やカンジダ症の増悪）を発症します。歯科で口の中をきれいにし、疼痛などの症状を緩和することは放射線治療の完遂につながります。

② 顎骨壊死の予防

顎骨に放射線が当たる場合は、放射線治療前に歯科治療を行うことで放射線性顎骨壊死を予防することが出来ます。

2.治療について知る

第1部

病気や治療について

5. がん診療連携登録歯科医とは？

がん診療連携登録歯科医とは「全国共通がん医科歯科連携講習会」を修了し、がん患者さんへのお口のケアや歯科治療についての知識を習得した歯科医師のことです。詳しくは以下をご覧ください。

○がん情報サービス

がん診療連携登録歯科医名簿

[https://ganjoho.jp/med_pro/cancer_control/
medical_treatment/dental/dentist_search.html](https://ganjoho.jp/med_pro/cancer_control/medical_treatment/dental/dentist_search.html)



memo

memo

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....


.....

.....

.....

.....

.....



3.情報を集めよう

(1) がん診療連携拠点病院等とは

岡山県には1か所の「都道府県がん診療連携拠点病院」と6か所の「地域がん診療連携拠点病院」、2か所の「地域がん診療病院」があります。また、がん診療連携拠点病院に準ずる病院として、県独自に4か所を「がん診療連携推進病院」として指定しています。(2023年11月1日現在)

○岡山県がん診療連携協議会

がん診療連携拠点病院とは？

<http://www.okayama-ganshinryo.jp/about/hospital.shtml>



(2) インターネットで情報を探す

次のホームページで、様々ながん関連情報をご自身で調べることができます。がんに対する不安や疑問を解消するために、がんについて詳しく知りましょう。

○国立がん研究センター がん情報サービス

<https://ganjoho.jp>



○国立がん研究センター がん情報サービス

患者必携 がんになったら手にとるガイド 普及新版

https://ganjoho.jp/public/qa_links/book/public/hikkei02.html



○一般財団法人国際医学情報センター がんinfo

<https://www.imic.or.jp/library/cancer/>



3.情報を集めよう

第1部

病気や治療について

○がん情報サイト Cancer Information Japan
<https://cancerinfo.tri-kobe.org/>



○日経B P社 がんナビ
<https://medical.nikkeibp.co.jp/inc/all/cancernavi/>

○公益財団法人がんの子どもを守る会
<https://www.ccaj-found.or.jp/>



○岡山がんサポート情報
<https://www.pref.okayama.jp/site/cancer/>

(3) セカンドオピニオン

突然がんと告げられ困惑した状況で、主治医から提示されたどの治療を受けるべきかを選択することはとても困難で、ご家族と相談しても決められないことはよくあることです。このような場合、主治医以外の専門医師からの情報を得ることで、納得して治療選択ができることに繋がります。

セカンドオピニオンを受けたい場合は、まずは主治医にその旨を相談してください。医師はセカンドオピニオンの重要性を理解していて、あなたの申し出を断ることなく、必要な資料を紹介状とともに準備してくれます。セカンドオピニオンをどの病院で受けるか迷う場合には、主治医に相談したり、がん診療連携拠点病院等にあるがん相談支援センター(P7参照)でも情報を得ることができます。また、岡山県がん診療連携協議会ホームページにも情報を掲載していますので、ご参照ください。

○岡山県のセカンドオピニオン実施医療機関
(岡山県がん診療連携協議会HP)

http://www.okayama-ganshinryo.jp/second_opinion/

